

(様式2)

令和4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1591600166		
法人名	社会福祉法人上越あご福祉会		
事業所名	グループホーム妙高愛宕の園(2ユニット共通)		
所在地	新潟県妙高市小出雲3丁目12-18		
自己評価作成日	令和4年12月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和5年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

妙高山を眺めながら、馴染みの温泉名がついた「あかくら館」「つばめ館」のユニットで四季折々感じながら、行事などを行っています。コロナ禍で外出が制限されていた事もあり、法人内の障害者就労支援の方々が営んでいる食堂をお願いして「出前ラーメン店」を企画し、利用者様の目の前でラーメンを作って頂きとても喜ばれていました。次年度も計画しております。事業所の理念を日々の申し送り時に唱和して1日がスタートします。利用者様の笑い声が絶えない生活の場になるように職員一同、利用者様の視点に立ってケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、妙高市の街中に位置している。開設以降、いくつか運営母体の変更はあったが、開設当初からの運営理念を大切にしながら地域に根ざした事業所作りに取り組んでいる。管理者は、職員の仕事のやり甲斐を大切にしており、出来るだけ企画等の立案・運営を職員に任せている。そうすることにより組織の横や縦へと情報が活発に流れ、事業所内の風通しが良くなることを目指し、ひいては利用者へのケアの取り組みの向上を図っている。

また、家族との関係作りでは、他の事業所においてコロナ禍で取り組みの自粛が一般的である中、コロナ禍の中だからこそ、家族に利用者の事業所内での生活の様子をより詳しく伝える工夫と取り組みを行っている。食事においては、未だ利用者と職員が同じテーブルで食事はできないが、コロナ収束後は、以前のように職員が利用者と共に食を楽しもうと考えている。

管理者は、グループホームは何故グループホームなのか、特別養護老人ホーム等の事業所とは何が違うのかを自覚し、グループホームの特性である家庭的な集団生活の場作りについて職員と共に取り組んでいる。今後の進展がますます期待される事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット・廊下に法人基本理念と事業所理念を掲示しており事業所理念を日々の申し送り時に唱和しています。	運営母体がいくつか変わってきた中でも、グループホーム設立当初の職員で作成した運営理念が継続されている。各ユニットには法人理念と事業所理念が掲示されており、毎朝の朝会時に職員全員で唱和が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ禍の為日常的に交流する事が出来ませんでした。ボランティアでご近所の方が施設の草刈りをして下さったり、冬期間は施設の駐車場の一部をご近所の方に提供しております。	町内会に加入しており、コロナ禍以前は納涼会やバーベキュー等の催し物案内を町内回覧することで近隣住民からの参加があった。またオカリナ演奏や踊りの慰問ボランティアの受け入れを行い、地域住民との交流が保たれていた。現在、コロナ禍によりこれらの活動が自粛状態となっているが、引き続き地域住民から柿が届けられるなど交流を継続している。今後は以前のような交流活動を復活させたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設駐車場で外気浴中にご近所の方に挨拶させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の状況やホームの運営状況をお伝えし、ご意見を頂いたり情報交換を行っています。	会議は、家族代表、町内会長、民生委員、市役所担当、法人本部、管理者、計画作成者により構成されている。コロナ禍により利用者の参加はなくなり、開催形式も書面による開催となっていたが、3月下旬から以前のような参集形式で実施される予定である。管理者は、これまで出来なかった活発な意見交換を図りたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話やメール等で福祉介護課の方に相談させて頂いたり、「みょうこうケアフォーラム」で医療・介護・福祉が意見交換出来る場が年に数回あり参加しています。	市の担当課職員が運営推進会議の構成メンバーとなっており、事業所の取り組み等について理解が得られている。また、生活保護受給の利用者が入居しており、市担当職員との定期的な面談が行われている。管理者は疑問点や不明な点があれば市役所と連絡をとり、常に顔の見える関係作りを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議の時に職員に周知し、人感センサー・窓のストッパーについて繰り返し検討しています。	身体拘束防止の指針が整備され、拘束から解除までのフローチャートもわかりやすく作成されている。事業所内に身体拘束防止委員会が組織されると共に、法人エリア内研修において研修が行われている。スピーチロック(言葉による行動制限)等も日々意識し、対応を心掛けている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議の時に虐待防止について認識確認を行い、法人としてはストレスチェックを実施しています。	虐待防止の指針が整備され、何をして虐待なのかをわかりやすく説明している。虐待防止委員会が組織されると共に、法人エリア内研修において虐待に関する定期的な研修を受けている。また、法人による職員のストレスチェックが年1回実施され、該当者は提携医または上司等に面談できる仕組みが築かれている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の対象になる方がいない為、学ぶ機会がありませんでした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様に契約書・重要事項説明書を中心に丁寧な説明を心掛け、質問には納得のいくまで説明させて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からのご意見は、受診時で来所された時や電話連絡があった時などに伺っています。また利用者様の声には常に耳を傾け要望を把握し、ご家族様と情報共有をしております。	コロナ禍において、家族との面談が行いにくい中でも、面会がある時には家族とじっくりと話をしよう努めている。居室担当職員が家族に電話連絡する際には、出来るだけ家族の声を引き出すよう心掛けており、コロナ禍だからこそ事業所側からのアプローチを大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット合同会議で上がったり、随時受ける意見や提案で即答できない事に関しては法人内の管理者会議で更に検討しています。	これまで毎月、ユニットごとに会議が開催されてきたが、職員側のアイデアにより夜勤時の応援や勤務体制の柔軟性の観点から、昨年12月から合同ユニット会議の形へと変更されている。さらに検討が必要な場合は、法人の上司に意見を仰いでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内の「上期評価・下期評価」各自の目標に対して法人が評価しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員交代で研修に参加し、法人の新井エリアでの研修にも参加したり・内部研修もいケアの質を高め合っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	妙高市主催の「みようこうケアフォーラム」では他職種との関わりの中で意見交換をしてサービスの質が向上出来る取り組みに参加しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人・ご家族様と面談させて頂き、困っている事や要望をお聞きして安心して生活ができるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談で、ご本人・ご家族様とお話をする中で要望など伺い対応ができるように職員と検討し信頼関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の情報を把握・理解した上で支援ができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を確認しながら「頼られている」と思ってもらえる支援を行っています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月近況報告と通信を発行しホームでの生活状況や行事の状況をお知らせしています。その他、受診対応で来所された時などに現状報告しご家族様と一緒にご本人の現状を共有しています。	毎月各ユニット便りを発行すると共に、各居室担当によりA4の近況報告が毎月作成され、事業所での生活の様子を詳しく家族に報告している。家族に電話を掛ける際には、出来るだけ利用者に代わる等コロナ禍においても本人と家族との関係が途切れないよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室には空いている時間など配慮して頂き通っています。	コロナ禍において外出や面会の制限はあるものの、理美容については混まない時間で予約を行ったり、利用者の大好きな高田城址公園の花見にドライブ形式で出掛けたりと、事業所として出来る範囲での工夫を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いのユニットを自由に行き来して日々交流しており、イベントがある時は合同で行い食事会などは席をシャッフルし交流しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設入所後も面会に伺っていましたが、現在はコロナ禍の為伺っていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望や意向を把握し、出来る限り利用者様の生活習慣に合わせられるよう努めています。	「センター方式」のアセスメントシートを事業所独自に工夫しながら使用し、利用者本人の希望や思いについて把握するよう努めている。入居後に知り得た情報についても追記を行い、職員で共有することによって日々の介護支援につなげている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの関係を築きながら、これまでの生活環境の把握に努め、選挙などにはご家族様の協力得ながら投票に出向いています。	入居時に家族からのお話や本人からの聞き取り及び担当居宅介護支援専門員からの情報をまとめ、それまでの暮らしの情報をフェイスシートに記入し職員で共有するよう努めている。	入居後に知り得た情報を追加で記録し、それを共有することで日々の介護支援につなげることが出来るものとする。これまでの生活歴や馴染みの暮らし方を専用に記録し追記できる書式の作成が望まれる。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の暮らしのリズム、過ごし方、出来ることを見極め把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く生活できる為のケアや課題の在り方について本人・ご家族様・必要な関係者の気づきやアイデアを立てあい介護計画に反映しています。	居室担当職員がモニタリングに参加し、計画作成者と協働して介護支援計画の作成に関わっている。モニタリングは6ヶ月毎に行い、ユニット会議においても全職員で協議している。コロナ禍によりサービス担当者会議は全員参加での開催はできていないが、家族には事前に電話でケアプランの説明を十分に行って、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの気づきを具体的に記入しより良いケアに向けて情報共有しながら実践し介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の状況や要望に向き合い、その時々に必要な支援を柔軟に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には声をかけて頂き、回覧板も確認しながら参加し、町内のお祭りは神輿がホームに来てくださいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に家族の希望を伺い、かかりつけ医の変更・継続ができるように努めています。また、主治医とはメール・電話・状態報告文書にて早期対応しています。	入居時に協力医に関する説明を行っており、本人・家族の希望に沿った形でかかりつけ医を決定している。協力医は毎月定期的な訪問診療を実施しており、事業所にとって力強い存在である。受診の付き添いは基本的に家族の役割としており、その都度事業所側からの医療連携文書が渡され、さらに医療機関からの返信が書きこめるよう工夫されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間緊急時の対応が可能になっている為、その都度状態報告や相談し情報共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は容体を伺い、情報交換をしながら退院に向けての受け入れ体制を整えつつ退院前カンファレンスで最終確認しスムーズな退院ができるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方について、出来るだけ早い段階から本人や家族、かかりつけ医と繰り返し話し合いチームで方針を共有し支援しています。	法人としては看取りに取り組む方針を示しており、重度化及び看取りに関する指針が整備されている。これを受け入居に際して家族に対し、事業所として出来ること、出来ないことの説明を丁寧に行っている。これまで看取りの実績はないが、事業所としては、医療支援等の諸条件を整えば看取りに取り組む意向である。	看取りを行うに際し、何故看取り支援を行うのか、職員との意識の共有が必要である。また看取り等に関しての研修が設定されていないことから、今後は、研修等の実施により、事業所としての対応力を高めていくことに期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師から定期的に感染症の対応・服薬管理などについて内部研修を行っている。「ナース便り」も定期的に作成し職員のスキルアップと実践に繋げています。	事故・ヒヤリハット報告書については、リスク委員会において対応策の評価及び分析が行われている。看護師による「ナース便り」で緊急時の観察のポイントを説明し研修したり、地元消防署による普通救命を学ぶなどして、職員の即応力を養えるよう取り組んでいる。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害マニュアルを作成し、消防署立ち合いのもと総合訓練を行っています。災害備品・備蓄も準備しています。	火災・地震・水害に対する災害マニュアルが整備されている。市のハザードマップには想定されていないが、4年程前に河川災害により市の体育館へ避難した経験がある。年に2回避難訓練も実施し、うち1回は消防署の立ち合いと助言を得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し自尊心を傷つけないように対応しています。写真の掲載も入居時に確認し同意を得ています。	法人エリア研修において人権や個人尊重に関する研修が行われており、管理者は、利用者を自分に置き換えて、もし自分だったらどう感じるか、と機会がある度に職員へ投げかけている。事業所として、利用者の人格を尊重しプライバシーに配慮したケアを心掛け、真摯に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定できるように働きかけています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度、状態を把握しながら希望に添えられるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴後の衣類を選んでもらえるように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳や食器洗い・お盆拭き等出来ることを職員と一緒にしています。法人内の障害者就労支援のお店から「出前ラーメン店」を依頼しホームのキッチンでラーメン作りを実演して頂きました。	献立作成や食材の手配は外部業者に委託しているが、出来るか限り季節感のあるメニューを要望している。コロナ禍により職員も同じテーブルで同時に食事を楽しむことは未だ出来ない状況であるが、3時のおやつ作りでは、ぼた餅や笹寿司作り等バリエーションに富んだ楽しみ方に取り組んでいる。食後の食器洗いやお盆洗いは、利用者も参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の嚥下状態・口腔内の状態に合わせて食事形態を提供しています。夜間の水分補給も通年行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けと必要時時は仕上げ磨きを行い、夜間は義歯洗浄を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケース記録に排泄状況を記入し一人一人の排泄パターンを把握しています。夜間も時間誘導を行い、トイレでの排泄ができた喜びを感じて頂いています。	利用者一人ひとりの排泄確認表があり、個々の排泄リズムの把握とそれに基づいた支援に努めることにより、入居後に紙パンツから布パンツへと状態が改善した利用者もいる。トイレ誘導等の場面では、プライバシーに配慮しさりげない支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し排便パターンを把握しトイレ誘導を行っています。歩行運動・軽体操を毎日行い便秘予防に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めています、その日の体調や気分に応じて時間や日にちを変更しながらご本人の希望に合った支援をしています。	概ね一人当たり週2回の入浴を目標に実施されており、さらに出来る限り同性介護を心掛けている。入浴をしたがらない利用者には、時間をずらしたり対応職員を代えたりして対応している。菖蒲湯や柚子湯等の季節湯の楽しみにも取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の室温や寝具の調整など環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を確認しながらWチェックにて服用して頂いています。薬については提携している薬剤師や主治医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫の得意な入居者様に雑巾など作って頂いています。行事食の時は希望者にノンアルコールビールを提供し気分転換の支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出自粛を行っているが、花見やアジサイ見学に出かけたり、事業所周辺の神社に散歩に出かけています。	コロナ禍により以前のような外出は自粛状況にあるが、混む時間をずらす工夫等により下車しないドライブ等には出かけている。近くの神社へ散歩にでたり、天気の良い日には駐車場にテーブルを出して昼食を楽しむ等、出来る限り戸外へ出られるよう取り組んでいる。コロナ収束以降には、花見や新緑・紅葉見物の外出への希望がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をお持ちの方は、契約時にご家族様の同意を頂いた上で自己管理の支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば電話をかけた、取り次いだりしています。手紙・郵便物は開封せずご本人に渡し、要望があれば開封し渡しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの食席などは特に決めておらず、入居者様の自己決定ができるように努めています。掲示物は入居者様と作成し飾っています。	内装は全体的に木目調を基本としており、トイレや浴室のドアも落ち着いた黒色トーンで統一されていることで上品な雰囲気を醸し出している。窓は広く採光が良く、外の景色を十分に楽しむことができる。各ユニットには行事の写真や利用者の手作り作品が掲示されており、華美な装飾にならないよう生活の場所としての配慮が図られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人の時間をもてるよう配慮したり、気の合った入居者様同士会話ができるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や寝具を持参して頂いています。	居室には、ひ孫の写真が飾られていたり、配偶者の遺影にお水が添えられていたり生活感が感じられる。多数の利用者が自室にテレビを持ち込んでおり、仲の良い利用者同士が居室で会話を楽しんでいることもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーになっている為、自ら歩行運動の為、館内を歩行されたり、トイレの表示も分かりやすく表示しています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				